

日本看護研究学会 近畿・北陸地方会

NEWSLETTER

世話人代表就任に際してのごあいさつ

近田敬子(兵庫県看護協会)

はじめまして、或いはお久しぶりでございます。

近畿・北陸地方会会員の皆様におかれましては、ご健勝のことと存じ上げます。

この度、私は日本看護研究学会近畿・北陸地方会の世話人代表を務めさせていただくことと相成りました。精一杯、努力致しますので、皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

冒頭のごあいさつのように、地方会活動をしばらく小休止させていただいておりました。久しぶりに学会活動にエネルギーを割かなければならないと肝に銘じている昨今でございます。顧みれば、石川県での今回の地方会学術集会が18回目となっておりますが、約20年前の第1回目に手探りで実行委員長をさせていただいたことを思い出します。その後、自発的に集まったメンバーで世話人会を組織し、6年間の世話人代表を経験いたしました。また、2回ほどNEW看護学セミナーの企画・運営に従事しました。すなわち、日本看護研究学会活動を通して、多くの実践・教育・研究に関する知識を得ました。換言して、日本看護研究学会に育てられながら我が職業人生を歩んできたといっても過言ではありません。地方会に纏わる自己紹介はこの辺までにいたします。皆様とともに歩めることを願いつつ、そして地方会活動が会員の皆様にとって何らかの貢献に繋がれることを期待して進めて参りたいと存じます。

本地方会が抱える目下の課題は、昨年度から続いている「看護研究継続セミナー」の、さらなる推進・発展かと思われまます。懸命に取り組みられた研究成果を学術集会の場で公表し、ディスカッションを経て、そのことにおいて看護の質向上に繋げられる見通しを獲得していただきたいと念じております。次いでは、中国・四国地方会と分離独立しての近畿・北陸地方会のあり方の検討が迫られていると感じております。すなわち、1,000名を超える大所帯の地方会を自発的に集まったメンバーで運営していく方針でよいものでしょうか。今後どのように組織化していくのかが問われているのではないのでしょうか。そして、今後ともに必要とされる地方会活動は何であるかを見極めていかなければならないでしょう。

いずれにしても、皆様からのご提案やお知恵を戴きながら進めていく所存です。活発なご意見をお寄せ下さい。お待ちしております。



第2回、第3回看護研究継続セミナーのご報告

西田直子(京都府立医科大学)

第2回看護研究継続セミナーは、京都大学の芝蘭会館で平成16年3月20日(土)12:40～15:30にキャンパスプラザ京都で行われました。第1部には野島良子先生をお迎えし、看護研究に関する考え方や姿勢についてお話しいただきました。第2部ではグループワークを行いました。野島先生の教え子の方々が多く参加され、54名の人が集まりました。

第3回看護研究継続セミナーで学会発表まで進んでいるとこ

ろ、計画段階のところ、人事異動もあり音信不通のところもありましたが、研究を楽しみながら進めていきたい、発表に向けて取り組んでいきたい、今回参加していない人も一緒に研究したいなどの意見が寄せられました。

次回は各グループワークで進めていくことになり、研究したい人が目標を持って研究できる活動にしたいと願っています。

第17回地方会学術集会（in京都）を開催して

実行委員 矢吹明子 今西誠子（京都市立看護短期大学）

平成16年3月21日、第17回日本看護研究学会近畿・北陸地方会学術集会をキャンパスプラザ京都にて開催いたしました。中国・四国地方会と別れ、近畿・北陸地方会単独での開催ということもあり、京都・滋賀の大学の協力を得て、昨年5月、実行委員会を立ち上げました。学会ではより多くの方々に発表の機会が与えられること、また同時に地方会の良さである十分な討論が出来ればというニーズもあり、学会のありようについても考えさせられました。

学会とシンポジウムのテーマを「看護基礎教育における看護技術教育を再考する」—卒業時の到達レベルを見据えて—とし、シンポジストの方々によるそれぞれの立場からの意義ある提言を得ることが出来ました。テーマが、今の看護界（臨床と教育）における現状と問題に即していたことから参加者も多く、その内容は今後の教育におけるエネルギー源となり、有意義な時間を持つことが出来たと好評でした。

さて、経費についてですが、近畿・北陸地方会としての単独開催ということ、京都という土地柄も含め、学会参加者の人数予測が見込めず、経

費の予測も難しい状況でした。しかし、会場におけるいろいろな事情や多くの方々による協力を戴くことが出来、心配していたロイ基金も全額返還でき、さらには余剰金を出すことも出来ました。

初めての経験で、行き届かないところが多くあり、ご迷惑をおかけしましたが、多くの方々のご参加・ご協力くださり無事学会を終えることが出来ました。改めてお礼申し上げます。

また、学会がよりよい看護の発展をめざした学びの場となっていることを、学会開催実行委員を経験させていただいたことによってより明確にすることが出来ました。ありがとうございました。

なお、第4群8の演題名「SF-36による外来高齢透析患者のQOLについての一考察」石井俊行（神戸徳州会病院）は当日欠席のため、発表がなかったことをご報告します。



シンポジスト打ち合わせ風景



シンポジウム風景

地方会16年度事業

- 1 第18回地方会学術集会開催
日時：平成17年3月20日 場所：石川県女性センター
テーマ：ケアリングを科学する
実行委員長：佐々木栄子氏（石川県立看護大学）
- 2 平成16年度総会開催
- 3 ニュースレター第6号発行
- 4 地方会看護研究部会活動（看護研究継続セミナー）